会報

第１８号
２００９年１２月１日発行

発行：群馬県地域密着型サービス連絡協議会
事務局：〒370-3521　　高崎市棟高町 1257－5
NPO 法人じゃんけんぽん事業本部内
TEL 027－387－0180　FAX 027－387－0181
E メール　renkyou@gunmaken-chiiki.net
協議会ホームページ　http://www.gunmaken-chiiki.net

第７回
群馬県小規模多機能・グループホーム大会

2009年10月19日
前橋市総合福祉会館

平成21年10月19日「第７回群馬県小規模多機能・グループホーム大会が前橋市総合福祉会館にて開催されました。参加者も会員・一般の方々等合計439人と過去最高であり、有意義な大会となりました。Ⅰ部では、パネリストとして、北海道認知症高齢者グループホーム協議会会長の武田純子氏と、群馬県議会議員であり、若年認知症ぐんま家族会の副会長の大沢幸一氏と、首都大学東京教授の勝野とわ子氏を招いて、「若年性認知症と向き合う」というテーマにてシンポジウムが開かれました。武田氏より「若年性認知症の方のケア実践を通して」、大沢氏より「妻の介護する日々を通して」、勝野氏より「やりがいが達成感に！スタッフの力量」と題して、それぞれにお話をしていただきました。Ⅱ部では、４つの分科会に分かれ、事例発表が行われました。第１分科会では、「小規模多機能型居宅介護の実践」をテーマに11事例が、第２分科会では、「リハビリ・ターミナル・介護への思い」をテーマに９事例が、第３分科会では「個別ケアの実践」をテーマに９事例が、第４分科会では「生活の充実・事業所の取り組み」をテーマに１０事例の合計３９事例の発表がありました。

会長 井上 謙一

今大会において皆様ご多忙の中400人もの方にご参加していただいた事あらためて御礼申し上げます。年々認知症のことが世間でも話題になり理解されて参りました。この大会も第7回を向かえ皆様のご理解とご協力により益々盛況になっております。

私達の理念は「たとえ認知症等であってもその人が住み慣れた地域又は在宅で活ききる事を支援します。」とあります。今大会はその実現の為に日々現場で考え、苦しみ、一筋のあかりを求めて奮闘された39事例の発表を通して、皆様と共にその意味を探り今後のケアの在るべき方向性を探っていけた事でしょう。それと「若年性認知症と向き合う」というテーマでのシンポジウム。皆様のご利用者の中に若年性認知症の方はいませんか？特に若年期の認知症は、本人はもとよりその家族や取り巻きの生活の仕方を変えらざるを得ない深刻な状況を生みます。3人の方々にその実態をお教えいただき「どう向き合う」かを、皆様と考える事が出来た事、有意義な時間が持てたと思います。

話は変わりますが11月19日から新型インフルエンザワクチンの投与が始まりました。優先の医療関係者から順次投与がされる事は拡大を防ぐ上で重要な事と思います。しかしワクチンの供給量の不足が原因ですが介護職員についてはワクチン投与の優先枠に入っておりません。特に小規模の団体である地域密着サービス事業者については職員の補完、代替性において余裕が無い状況です。是非介護職員のワクチン投与を実施していただきたいと思います。これに関しては文章にて県にはお願いいたしております。

政権が変わり「コンクリートから人へ」と矛先が変化した事は、福祉、介護に携わる者としては歓迎することだと思います。ただ予算原資ありきのことで職員の緊急人材育成基金の一部執行停止など心配な情報がながれてきます。これからも注意深く見守る必要があります。

私は連協役員と共にキャラバンメイトとして地域で認知症の理解を広げるため認知症サポーター講座を開催するなかで、地域の方々に必ず質問します。

① 皆様は例え認知症になっても住み慣れた地域や自宅で住み続けたいと思いますか？

② 又それは可能だと思いますか？

最初の質問には9割の人が手を挙げます。ほとんどの人が住み続けたいと願っています。②の質問になると8割の人が手を挙げません。理由を伺うと「家族に迷惑をかけたくない」「家族に無理と言われている」「独り暮らしだから無理」「友達がいなくなった」「自分が我慢すればいい」「今は考えたくない」等です。そのような背景からか県内の特養待機者は5月時点で8225人と過去最多を更新しました。

（上毛新聞掲載、県実態調査）

内訳は在宅3329人，老健2385人、病院1339人、GH等1172人となっています。そのため県は08年の642床の増床に加え09年から960床をさらに増やす計画とあります。しかし待機者の数に併せ特養（施設）を増やし続け、そこに入所する事が果たして「地域の存続」はもとより「高齢者の尊厳を支えるケアの確立」と言う国が示す方向性に合致しているのか否か、あずけるだけでなく家族や地域で支えることを本気で考える時期に来ていると思います。上記待機者の40％が在宅で生活しながらも特養の空きを待っている状況は本人の真のニーズ「住み慣れた場所で活きて行きたい」から見れば異常だといえます。在宅生活の継続を支援するシステムを行政、介護事業者、医療関係者、NPO、家族、地域住民等が早急に集まって創り実践するときです。

私達は地域密着型サービスとしてこのシステムの中核となり地域の拠点となる役割があります。特に小規模多機能は在宅生活を基軸にしつつ本人、家族の多様なニーズに柔軟に応えられる画期的な事業です。さらに地域の人に理解されもっと拡充する必要があります。ＧＨにおいては未だ特養入所の待機場所のひとつと考えられていますが、今回の事例にもあったようにＧＨで最期を迎えるケースが多く見られるようになりました。現在ＧＨは設置に数量規制がかけられておりＧＨの充足率は９８，１％と言う数字がひとり歩きしています。各市町村の介護保険事業計画の中で地域の認知症の人の実態把握が再検討され実態に即した計画の見直しを求めます。現場の実感としてＧＨは今の倍あっても多すぎると言う事は無いと思います。それは単なる事業者の運営要求ではなく、これからの日本の認知症高齢者対策として重要な事と考えるからであります。話題満載で読みにくい点もおありだとおもいますが、私の挨拶とさせていただきます。

各ブロック報告

東毛ブロック活動報告

東毛ブロック長　川島香瑞美

８月１日に第一回の研修が、午前と午後の二部で行われ、午後の部に４２名の参加で「ケアプラン作成のためのセンター方式」を行いました。センター方式推進委員の渡邊運営部長を招き、①センター方式の特徴、シートの全体構造やねらいについて②アセスメント～プラン作成、モニタリングを実際どのように行っているか③グループに分かれ、事例を検討しアセスメントを行い、センター方式で核になるシートに書き込んでいく。までを、研修いただきました。

１１月１６日には、講師に恩田研修部長を招き「センター方式を使ってケアプランを作ってみよう」という内容で第二回の研修を行いました。１５事業所２６名の参加者でグループワークを中心に行い、実際の事例を元にして、記載中心にケアプランを作成しました。５グループに分かれ、其々に特徴あるケアプランが出来ました。参加者の感想は「具体的で判りやすかった」「実際に記入するという作業が出来て良かった」など満足度も高かったようです。また、参加した事業所のうちセンター方式を使ってケアプランを立てているのは、１３事業所に及んでいました。ブロックで取り組んできた成果であると研修委員も嬉しく感じています。今年２月頃には、第三回ブロック研修会として普通救命救急を実施する予定です。また、年度内に管理者と役員の意見交換会を設けたいと思います。地域密着型施設では、管理者のストレスが高く、管理者の苦労や悩みに少しでも答えていきたいと考えています。事前アンケート調査を踏まえ管理者の皆さんが聞きたい事、日々悩んでいる事など各事業所間で工夫や役員との話しで解決策を探りたいと思っています。前期のレベルアップ研修では新型インフルエンザの影響で中止する事業所が見られましたが、ほぼ順調に実施できました。来年１月末より二回目のレベルアップ研修も実施予定です。今後もよろしくお願い致します。

中・北毛ブロック活動報告

中・北毛ブロック長　池田　清

９月を中心にグループホームと小規模多機能ホームの見学研修として、９施設の介護職員が一施設あたり１～３名ずつ、他ホームへ延べ１７名が一時間程度の見学を行いました。見学の日付と時間帯はそれぞれの施設で事前に連絡し合い実施。介護現場の職員さんは、このような研修の機会をつくらないと、なかなか他ホームへ出かけることが少ないため、買物・調理・レクリエーション・入浴・おやつ・排泄などの日常生活場面を見学され、他施設の温かい雰囲気や生き生きとした利用者の表情・献立・調理など様々な工夫がされていることを学ぶと共に、同じ悩みを抱えている点に深い共感があったなど、有意義な見学研修になったようです。

レベルアップ研修については、１０月から１２月にかけて、中北毛５２事業所中、２３事業所が参加

していただき、派遣・受入共にできるが20事業所、受入のみできるが2事業所、派遣のみできるが1事業所であり、既に実施済の事業所もありますが、現在実施中、或いはこれから実施予定の事業所もあり、研修終了後、内容の取りまとめを行いたいと思います。

また、今後の予定として年明け1月または2月に管理者等研修会を開催予定でいます。

南部ブロック活動報告

南部ブロック長　清水浩幸

11月26日に、藤岡市藤岡公民館第3研修室に於いて第3回のブロック会議を開催致しました。今回は、会議開催のご案内から会議の日までの期間が短かった為か、18事業所の参加のみでした。会議では、見学研修とレベルアップ交換研修の実施状況についての最終確認を行いましまず見学研修についてですが、年度当初のアンケートで実施の意向を表明した事業所は28事業所でしたが、現在実施された事業所が2事業所、実施予定が2事業所にとどまっております。レベルアップ交換研修については、参加の意向表明が43事業所（うち受入のみが5事業所）で、終了している事業所は20事業所、日程調整中が3事業所となっておりました。

検討事項としては、一つ目として、エリアリーダーという制度を導入し、実施していくことになりました。エリアは、行政区や生活圏を考慮して、伊勢崎・佐波郡エリア、藤岡エリア、富岡市・甘楽郡エリア、安中エリアの4つ南部ブロック内を分割しました。またエリアリーダーの主な役割としては、行政説明会の依頼、運営推進会議の相互見学の実施状況の把握、情報交換会・事例検討会・交流会の開催などがあり、会員同士の采配をふるって頂くことになりました。

今後の予定として、12月12日（甘楽富岡広域消防本部）と19日（伊勢崎市消防本部）の2回に分けて普通救命講習を開催。3月には後期のブロック研修を開催する予定でいます。

西部ブロック活動報告

西部ブロック長　松原　徹

今年度は、定例会を6月に開催しました。この定例会の前にアンケートを取って、レベルアップ研修と施設見学が可能であるか確認し定例会には、ペアを決め実施出来るよう配慮しました。

7月の研修では「普通救命講座」を開催し、定員を超える応募がありました。来年の5月～6月にも開催予定にしておりますので、参加の方宜しくお願いします。又11月に開催された第2回定例会では、意見交換会を設けました。会長、行政にも出席して頂き行政質問や、会長に相談したい事、聞きたい事等を事前にアンケートを取り開催。内容はとても濃いものになったと思います。

「利用者の受診は誰がするのか…」「入退院を繰り返し介護報酬の収入が少ない場合の対応…」「インフルエンザによる職員の勤務…」「レクの考え方、個人の嗜好、全体のレク等…」予定の時間を延長してしまいました。ですが、こういった意見交換の場を設ける事によって、ブロック全体で考え助け合い、日々の向上に繋がると実感いたしました。今後も、意見交換の場を設けたいと思います。

今後の予定として、認知症サポーター養成講座を一般市民・ブロック会員向けに開催し、3月には定例会と講習を考えています。

小規模多機能活動報告

小規模多機能全県ブロック長　櫻場一典

11月12日に、勤労福祉センターにて22の事業所（29名）の出席者の中、第2回小規模多機能の意見交換会が開催されました。まず、スプリンクラーについて、各市町村においての対応はまちまちであるが、ついているところは2箇所、つけ

うとしているところは4箇所、つける予定はないところは4箇所という報告でした。また、皆さんから出されたものの一部を紹介してみますと、①家族のニーズと本人のニーズが異なる時の支援について意見が出され、見極めの難しさが指摘されました。計画の窓口を、ケアマネ専任が必要ではないかという意見。また、24時間365日の対応に応えるには、管理者、ケアマネ、主任という3人体制で計画等の窓口を対応する事が有効であるという意見が出されました。また、リーダー制をとっているという事業所もありました。②高橋部長より、介護労働処遇改善助成金について是非申請したほうがよいと意見が出され、説明された。③看護師さんが経営する単独型の事業所で、当初大変だったが、利用者さんに親身になってケアしてきた結果、口コミで利用が広がっているとの報告がありました。④「小規模での看取りについて教えて欲しい」という意見に応えて、2箇所の事業所で3名の看取りを行った事例が報告されました。⑤1人暮らしの限界を感じつつ、訪問を行っていない事業所に対して、井上会長よりまだまだできる、社会資源（民生委員やご近所他）の協力を、とのアドバイスがありました。

皆さん課題を抱えながらも頑張っておられ、第1回の意見交換会では、居宅介護事業所の紹介がなく利用者が集まらない等の経営的な質問等が多くありましたが、第2回の意見交換会では、とにかく頑張っていいケアをする、それが口コミで利用者確保につながるという意見も出され、各事業所でのがんばりが感じられました。また、高橋部長の言われるように、少しでも介護職の賃金向上のためにも、介護労働処遇改善助成金をはじめ、他の助成金も有効に使う事が必要だと思います。今後、制度やシステムも変わっていくでしょうが、利用者と小規模多機能の従業者のために、小規模多機能型居宅介護の質の向上に努力し、事業所間の協力が必要であると再認識しました。先日、11月9日10日、北海道でサービス評価の研修会に参加しました。また、全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会の大会が11月28日29日福岡で開かれます。来年3月に予定しています第3回の意見交換会ではその辺の情報も報告したいと思います。

広報ネットワーク部会より

認知症啓発活動の一貫として、群馬県各地で行政等と協働しながら、連協の役員を中心に結成された「群馬県ボケ一座」による寸劇を時には交えながら、連協のキャラバンメイトと共に、認知症サポーター養成講座が開催されています。一般市民・職場・学生などを対象にて数多く開かれていますが、各ブロックにおいても地域の方たちに認知症の理解を広げる為、開催を計画されていかれるとどうでしょう。ブロックの中でも市町村単位で行うのも一つの方法でもあります。地域密着型サービス事業所の役割の一つとして積極的に広げていきましょう。

ホームページに研修の日程がアップ！

ホームページに今年度の連協全体としての研修や各ブロックの研修日程がアップされています。研修内容によっては、他のブロックへの研修参加も出来るものもありますので、是非ご覧ください。開催時期が未定のものも、決まり次第更新されていきます。また、レベルアップ研修の様式もダウンロード出来るようになっています。その他、月一回開催されています役員会の議事録も随時更新されていますので、ご覧ください。皆さんには、ホームページや会報の内容について、アンケート調査も実施していきたいと思っております。

第2回リーダー研修のお知らせ

今年９月に２回に分けて開催された新人研修の様子です。昨年に引き続き、好評でした。

副部会長が就任されました

研修部会の副部会長として 9 月より新たに就任され役員に加わりました“ＧＨおおいど”伊藤慎一です。研修部会長と共に、頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

日時　平成２２年１月２５日（木）～１月２６日（金）　２日間
　研修時間は両日共１０：００～１６：００
定員　４８名　※２日間受講可能な職員　※定員を超えた場合には調整します
内容　１日目　１．リーダーの役割　２．コミュニケーションの力を磨く
　３．指導、育成方法　４．仕事の基本は報・連・相
　２日目　５．コーチングスキルを身につける
　６．明るい職場づくり　７．自己啓発のすすめ
参加費　３．０００円　※当日集金します。　※昼食は各自持参してください。
問い合せ　グループホーム喜楽（恩田）まで。ＴＥＬ０２７６－７０－１３２６
講　師　増田勝之氏
1959 年太田市生まれ。明治大学卒業、法務省入省。同省退職後、人材育成などセミナーの指導運営に携わる。人材育成コンサルタントとして独立。
現在、国及び地方自治体、企業のマネジメント、問題解決、コーチングなどに関する研修を指導している。経済産業省登録中小企業診断士。